

下関市医療対策協議会（下関医療圏地域医療構想調整会議）
（令和7年度第2回）議事概要

【日 時】令和8年3月2日（月）19：00～20：00

【場 所】下関市役所 本庁舎 西棟5階 大会議室

【出席者】出席者名簿のとおり

【議事内容】

- 紹介受診重点医療機関の選定について協議し、5つの医療機関を継続して選定した。
- 医療法人社団林田クリニックの対応方針の変更について協議を行い、合意した。
- 新下関市立病院整備基本計画の骨子について説明を行った。
- 新たな地域医療構想の策定及び医療計画の中間見直しについて説明を行った。

1 令和7年度紹介受診重点医療機関の選定について

県医療政策課から、紹介受診重点医療機関の選定について説明を行った。

関門医療センター、済生会下関総合病院、下関市立市民病院、下関医療センター及び長府第一クリニックを継続して選定した。

（主な意見・質問等）

特に意見、質問等はなし。

2 対応方針（2025プラン）の変更について

県医療政策課から、医療法人社団林田クリニックについて、診療所の廃止に伴い17床を削減する説明がなされた。

協議の結果、対応方針（2025プラン）の変更について合意した。

（主な意見・質問等）

特に意見、質問等はなし。

3 山口県外来医療計画に係る報告について

県医療政策課から、山口県外来医療計画に基づき提出された「外来医療機能報告」及び「医療機器の共同利用計画」について報告を行った。

（主な意見・質問等）

特に意見、質問等はなし。

4 新下関市立病院整備基本計画の骨子について

市地域医療課から、新下関市立病院整備基本計画の骨子について説明を行った。

(主な意見・質問等)

- 病床数について全室個室化とは、感染症に関する病床だけか、それとも全てが個室となるのか。
看護師不足と言われる中、全室個室化に必要な看護職員の確保について具体的な検討を実施したのか。
⇒ 全室個室化については、感染症病床に限らず全室の個室化が可能なレイアウトを想定している。
全室個室化で運用している他病院の事例を視察し、看護師の配置数を増やさずにオペレーションをしている事例を参考としている。
- 全室個室化により、感染症管理対応が容易となる。
また、男女の部屋の確保が容易となり、稼働率が上昇する利点がある。
- 令和6年の診療報酬改定により「急性期病院」の経営は瀕死の状態であり、激減している患者の競合が4つの病院で起こっている。
また、人件費や建設費の高騰等もあり、1年後の状況はわからない。
どの病院も経営が難しい現状を市民に理解していただくことが一番大切で、その中で最終的にどう進めていくかを決めるべき。
各病院の考え方や経営母体が4つとも異なるため、4病院での話し合いも難航しているが、今は、「進めるしかない」としか言えない。
- 2病院が合併して新病院となることで、文化を変えるという一面を持ち、経営に関する変革において、合併する意味がある。
- 一旦、建替え時期を迎える2病院が統合する流れとなったが、いずれは、残り2病院も統合が必要になる時代が来る。
- 市立病院であれば、最終的に経営の赤字部分は市民の負担と考えるが、開院後の経営シミュレーションはどうか。
赤字の全てを政策医療とは言えないが、その点はどう考えるか。
市民病院の現状はどうか。
⇒ 赤字が発生しない経営シミュレーションとしている。
現在、総務省の繰出基準に基づき、政策医療に係る赤字については、市が負担しているが、それ以外の赤字は、市の負担とする予定はない。
近年の市民病院は、過去の利益剰余金を充当する状況ではあるが、市が追加で負担することはない。

5 新たな地域医療構想の策定及び医療計画の中間見直しについて

県医療政策課から、新たな地域医療構想の策定及び医療計画の中間見直しについて説明を行った。

(主な意見・質問等)

特に意見、質問等はなし。